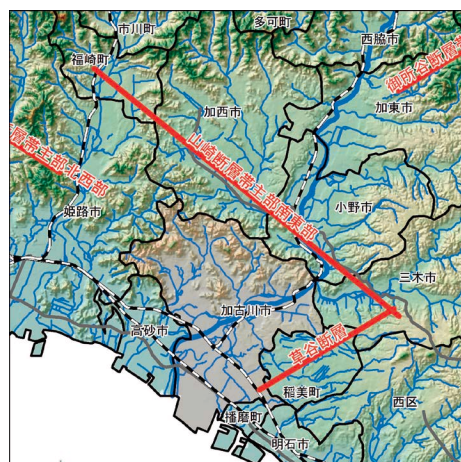




## 内陸活断層型地震について



活断層の典拠: 独立行政法人 防災科学技術研究所 地震ハザードステーション J-SHIS

市の周辺には「活断層」と呼ばれる過去に繰り返し活動し、将来も活動することが推定される断層が確認されています。

地下の地盤に押し合う力や引っ張り合う力が加わることで、ひずみのエネルギーが蓄積され、それが限界に達したときに、ある断層面を境に地盤がずれ動き、地震が起こります。

市の周辺では「山崎断層帯(主部南東部)」、「山崎断層帯(草谷断層)」によって甚大な被害が発生することが想定されています。

	断層帯名または地震名	マグニチュード	今後30年以内の地震発生確率
想定地震	山崎断層帯(主部南東部)	7.3程度	ほぼ0%～0.01%
	山崎断層帯(草谷断層)	6.7程度	ほぼ0%
参考	兵庫県南部地震(阪神・淡路大震災)	7.3	0.02%～8% (発生直前における確率)
	平成28年(2016年)熊本地震	4月14日…6.5、4月16日…7.3	ほぼ0%～0.9% (発生直前における確率)

典拠: 「地震調査研究推進本部」(算定基準日 令和5年1月1日)

## 震度と想定される被害

**震度 4**

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

**震度 6弱**

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

**震度 5弱**

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

**震度 6強**

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な土すべりや山の崩壊が発生することがある。

**震度 5強**

- 物につかまらなると歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

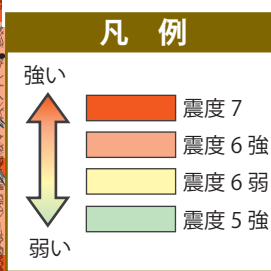
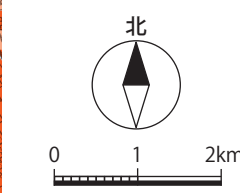
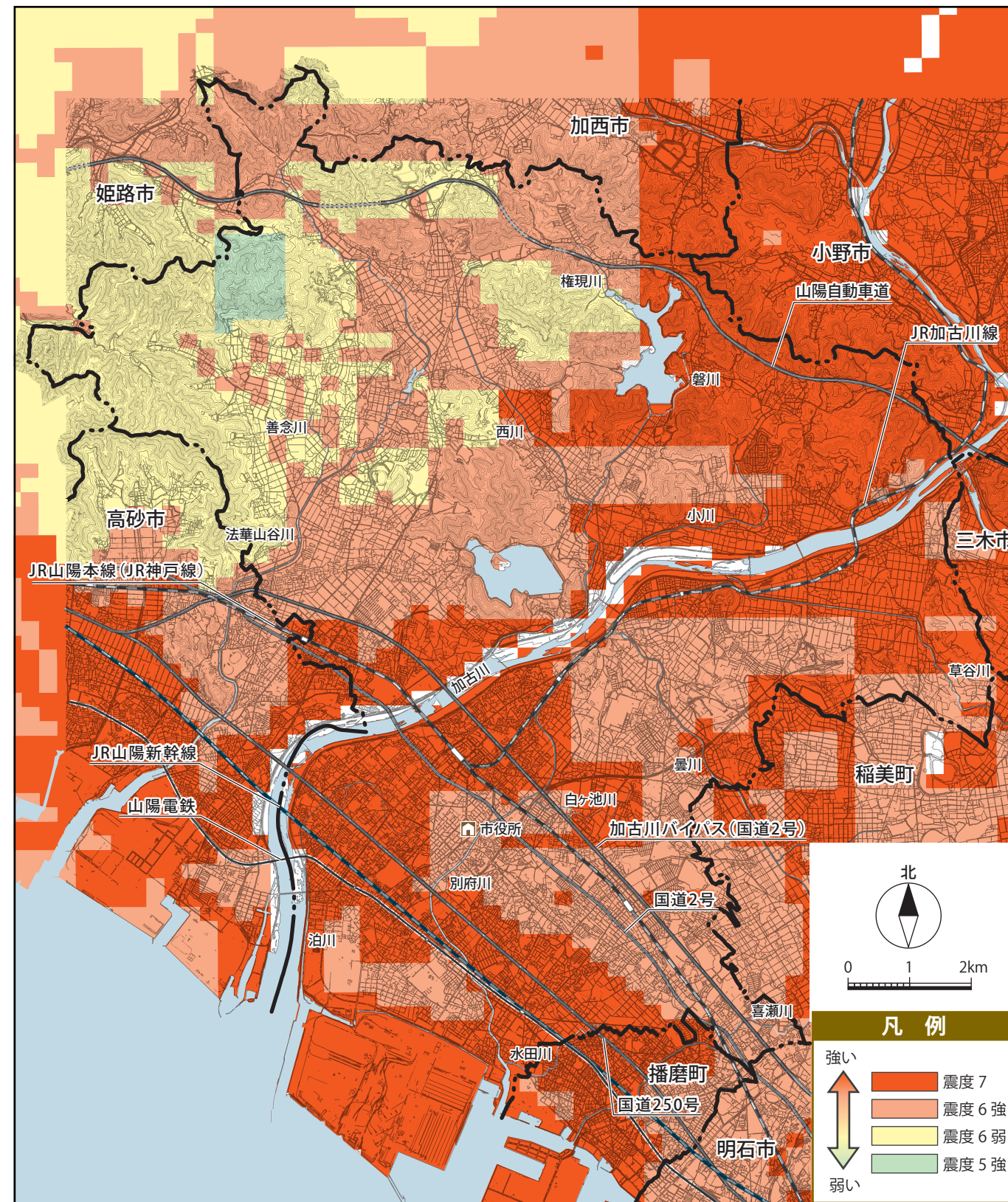
**震度 7**

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

## 地震ハザードマップ(内陸活断層型地震)

### 山崎断層帯(主部南東部・草谷断層)地震の震度分布図

震度分布図: 兵庫県が平成22年3月に公表した地震被害想定(内陸型活断層)に基づいて作成



地震編

地震編